



伯耆町の紹介

伯耆町は鳥取県の西部に位置し、中国地方最高

認知症施策における取り組み

アルツハイマー月間での情報発信などを行っている。

・相談事業」として、もの忘れ検診やもの忘れ相談事業を行っています。

認知症施策では、「正しい理解を普及していくこと」「早期発見・早期対応で適切な医療や介護等に繋げること」「事業実施後もきめ細やかに個

別対応すること」をキーワードとして、21により認知症の疑いの

知るから始まる認知症

峰である大山(だいせん)ワードに、ステップ1からステップ4までのフロアを構成し、事業を実施する自然に恵まれた町です。令和8年4月時点で人口は1万71人、高齢者人口は4149人、高齢化率は41.2%となっています。

「認知症、軽度認知障害(以下、MCI)に関する正しい理解の普及啓発」を目的とし、認知症に関する情報誌の発行や

きるチェックで、住民健診や認知症予防教室など、多くの人が集まる場所に出向くなどして行っています。検査を受けた方からは、「楽しみながらできた」「自分の脳の健康状態が知れるきっかけになる」などの声をいただいています。

気づきから支援につなぐ

鳥取県伯耆町役場健康対策課高齢者支援室(保健師) 川本 洸

有無を検査します。ここ

で認知症の疑いありと判定された方へは第2段階

として、専門的な医療機

関での精密検査を勧めま

す。精密検査の内容とし

ては、頭部MRIやCT

での画像検査、神経心理

検査等、医師が必要と認

める検査です。また、第

1段階での住民の自己負

担はなく、第2段階でも、

診断が出るまでに掛かっ

た費用の助成を行っています。

令和7年度のもの忘れ

検診の受診者は83名で、

第1段階において「認知

症の疑いあり」として精

密検査を紹介された方が

16名おられました。第2

段階では、認知症と診断

された方が6名、MCI

と診断された方が10名お

援を行っています。

課題と今後の取り組み

施策を通じて、認知症

に強い不安感をもつ方や

症状の自覚のない方が医

療につながりにくいとい

う課題を感じています。

また、家族が認知症のあ

る方への介護や見守りを

頑張りが過ぎて必要な機

関に支援を求められてい

ないというケースも少なく

ありません。行政と医療

機関だけでなく、介護や

福祉、地域の住民の方々、

民間事業者等と顔の見え

る関係で連携を取り合

い、切れ目のない支援の

実現に向け取り組むこと

で、認知症のある方やそ

の家族が安心して生活で

きる町にしていきたいと

考えています。